

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900318
法人名	有限会社 ケアサポート岡井
事業所名	グループホームこころ
所在地	徳島県三好郡東みよし町足代1131番地 (電話) 0883-79-3377

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 11 日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤:16人、非常勤:4人、常勤換算:Aユニット9.4人 Bユニット9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート造り	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:9,000円、その他:実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 21 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三加茂 田中病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の多機能性を活かして短期利用型共同生活介護(ショートステイ)、地域にあるニーズ(要望)に前向きに取り組んでいる。また、一方では教育の一環として、小学生がグループホームに来て交流会を企画、実施したりと地域との繋がりが強化されている。事業所は認知症に対する理解の追求、職員の質の確保とサービスの質の向上に努められている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議は前回評価時は3か月に1回であったが、2か月に1回(奇数月)開催し改善され、議事録も全職員に回覧、サインもされている。職員を育てる取り組みでは職員に内容が確実に伝わる仕組みが十分でなかったが、報告書を全員に回覧してサインもされ、情報の共有が図られ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、項目ごとに全員で検討、自己評価を行い、課題点についても全員で話し合い、よりよい改善に向け取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回(奇数月)定期的に開催し、メンバーは利用者家族、地域老人会代表、行政職員、地域包括支援センター職員、ホーム運営者、管理者で構成されている。会議内容はホームの現状報告、自己・外部評価の取り組みや報告、利用者家族からは食の安全について意見が出されている。議事録は全職員に回覧、サインもされ、情報の共有が図られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の日々の生活状況を一行の日記にまとめたものや便りや写真などを定期的(月1回)に郵送報告している。意見、苦情等は来訪時に聞いたり、各ユニットには意見箱も設置している。重要事項説明書にはホームや外部の苦情受付窓口の担当者名も明示し、出された意見は検討し、運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域の自治会に加入し、地域の行事や活動に参加したり、小学生との交流、地元の阿波踊り連、民舞、祭りの神輿の来訪等で地域との頻繁な交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域との関わりを重視した事業所独自の理念が作られている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝ミーティングで言葉の持つ意味を管理者が説明して職員に伝え、確認しあい、日々のケアに活かす取り組みがされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の自治会に加入し、地域の行事、活動に参加している。小学生との交流、地元の阿波踊り連や民舞、祭りの神輿がホームに立ち寄るなど地域との交流が頻繁にされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己・外部評価の意義を理解し、全員で項目ごとに検討、自己評価を行い、課題についても全員で話し合い、よりよい改善に向け、取り組まれている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回(奇数月)開催されている。メンバーは利用者家族、地域老人会代表、行政職員、地域包括支援センター職員、ホーム理事者、管理者で構成されている。会議内容はホームの現状報告、自己・外部評価の取り組みや報告、利用者家族からは食の安全等についての意見が出されている。議事録は全職員に回覧、サインもされ情報の共有が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険みよし広域連合主催のグループホーム職員研修時に意見や要望を聞いてもらったり、市町村へ出向き、担当者に現状報告、情報収集したりとサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の暮らしぶりを伝えたり、毎月1回日々の生活状況を一行の日誌にまとめたものを写真、便りと一緒に郵送するなど、定期的に個々に合わせた報告がされている。また、金銭出納帳には家族が確認したサインもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット入口には意見箱を設置し、重要事項説明書にはホーム・外部の苦情受付窓口、担当者名も明示され、出された意見は関係者で話し合い、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアに心がけている。新入職員には利用者で紹介し、慣れるまで顔馴染みの職員と一緒に支援を行い、利用者との信頼構築に取り組まれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成して管理者、職員の研修の機会を設け、研修参加者は報告書を作成して、全職員に報告、回覧を行い、内容が確実に伝わるようサインを実施し、情報が共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部、県老人福祉施設協議会に入会し、会議・研修会には複数の職員が参加し、情報・意見交換や他のホームの見学などを行い、サービスの質の向上に活かせるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が馴染めるように職員が自宅を訪問し、十分な説明を行ったうえで本人・家族一緒にホームを見学してもらい、理解・納得を得たうえで利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の知識や経験から学んだり(畑仕事のアドバイス、米の研ぎ方等)、お互いに協働しながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用に至るまでの生活状況を把握するため、家族、地域の関係者との連携を深め、情報を得る努力をしたり、いつもそばで寄り添うことにより、その人の思いを感じ取れるよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	これまでの本人を取り巻く家族や関わりのあった人々から情報を聞くなどして、関係職員で話し合い、本人、家族と相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの実施と利用者の状態変化や本人、家族の要望など実状に合わせた随時見直しも行われ、モニタリング・カンファレンスも行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用型共同生活介護事業を実施されている。平成20年には2名の利用があり、多機能性を活かした柔軟な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携や協力が得られ、必要な時には、訪問診療も受けることができている。また事業所の協力医の支援もあり、適切な医療を受けることができ、利用者・家族にとって安心な支援体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から重度化した場合や終末期について家族と話し合いをし、医療機関の協力を得て家族、医師などと繰り返し話し合い、できる限り本人・家族の意向にそった支援に取り組んでいく方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の利用者への言葉かけや対応には常に尊厳の気持ちを持って、プライバシーを損ねないよう支援することを朝のミーティング等で全職員に周知徹底し、契約書、重要事項説明書にも明示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や特徴を大切にしながらさりげなく寄り添い、利用者の興味や関心ごとを見つけ、日々をその人らしく過ごせるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者を交えて日々の献立を考えている。利用者はホームで収穫した野菜を使い、下ごしらえや調理の手伝いをしている。利用者と職員と一緒に食事し、食後もゆっくりくつろいでからみんなで後片付けをされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが利用者の希望や状況に合わせて、いつでも入浴できる支援体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短歌づくり、絵を描く、カラオケ、花壇・菜園の手入れ、掃除、野菜の仕分け、干し柿作りなど一人ひとりに応じて役割、楽しみ、気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、庭や畑に日常的に出かけたり、食材の買物など一人ひとりのその日の希望にそった支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵はかけられていない。利用者が外出しそうな様子に気付いても止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなどして安全面に配慮して自由な暮らしを支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に年2回、消防団の協力を得て利用者の参加のもと実施している。マニュアルの作成もされ、地域の方々の協力を得られるよう働きかけもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個別に記録・保存し、全職員で把握されている。栄養バランス等については外部の栄養士に相談し、指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット入口は家庭的な玄関ドアで、色とりどりの季節の花が至る所に生けられている。壁面には行事・外出時の表情豊かな写真が貼られ、畳みコーナーにはホームごたつがあり、カーテン越しのおだやかな日差しのもとで居心地よく過ごせる場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前から使用していた馴染みの家具や裁縫道具が置かれたり、孫や家族の写真等が飾られるなど、思い思いにしつらえられた居室は利用者の自慢の我が家となっていて、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		